Hijicho
大阪市立大学新聞

2013.10.2
第21号

阪和線 VS 御堂筋線
速くて便利な最強路線はどっちか▶2面

12面市大七不思議
~ The 7 Wonders of OCU ~ 第2回

ニュース
BOX総会2013　決議書を大学へ提出　▶06面
市大存亡の危機～無関心ではいられない～ vol.5　▶08面

コラム
『はだしのゲン』だから？ ～閉架措置騒動によせて～　▶07面
府市大統合から国の成長戦略まで 今、注目を浴びる大学ランキング ～市大アジア69位ランクインによせて～　▶10面

その他
阪和線VS御堂筋線　仁義なき戦い
～速くて便利な最強路線はどっちか～　▶02面
市大七不思議 ~The 7 Wonders of OCU~ 第2回　▶12面

Hijichoは、大阪市立大学新聞の発行のみならず、ニュースサイト「Hijicho Web」(http://hijicho.com) も運営しています。Hijicho Webでは、記事を随時更新しているので、リアルタイムな情報を得ることが可能です。皆さん、ぜひとも「Hijicho Web」もあわせてご利用ください。

Hijicho 大阪市立大学新聞 第21号 2013年10月2日, 大阪市立大学 メディア団体 Hijicho 発行
リアルタイムな情報とお問い合わせは **http://hijicho.com** または **http://twitter.com/hijicho/**

阪和線VS御堂筋線　仁義なき戦い
～速くて便利な最強路線はどっちか～

大阪市内南部に立地する大阪市立大学。市大へ電車を使って通学する者は大きく2つに分けられる。大学に隣接するJR阪和線杉本町駅を使う者と市大の北東に位置する地下鉄御堂筋線あびこ駅を使う者である。阪和線、御堂筋線はともに大阪の南北を貫く路線である。**ここである一つの疑問が生じた。市大から天王寺、なんば、梅田の3大ターミナルへはどちらが速くて便利なのだろうか。**気になることはとことん追及、調査するがモットーのHijichoメンバーはこの疑問を解決するべく、実際に現地で調査を敢行した。

今回の調査のルール説明

・市大側のスタート/ゴール地点は学術総合センター前(以下学情)、天王寺、なんば、梅田のそれぞれのスタート/ゴール地点は待ち合わせなどでよく使われる場所 (天王寺:あべのハルカス、なんば:なんばマルイ、梅田:時の広場) に設定した。
・市大～杉本町、あびこ両駅へは徒歩で移動とする。
・調査を行う時間帯は平日の昼間とする。

それぞれのルートは下記の地図のとおり

基本データ
阪和線組:学情前-徒歩 (0.4km) -杉本町駅-阪和線 (6.9km) -天王寺駅-大阪環状線 (11km) -大阪駅-徒歩 (50m) -時の広場 総移動距離:18.35km　　電車賃290円
御堂筋線組:学情前-徒歩 (1.2km) -あびこ駅-御堂筋線 (13.4km) -梅田駅-徒歩 (250m) -時の広場 総移動距離:14.85km　電車賃310円

第1ラウンド 市大 (学情前) →梅田 (時の広場)

Hijichoメンバーの下馬評
・御堂筋線のほうが距離が短いので御堂筋線のほうが早いと思う。
・ゴールの時の広場はJRの改札口からすぐだが、御堂筋線の改札からかなり離れており、また大阪環状線は快速もあるが御堂筋線は各駅停車。なので阪和線組にも十分勝算あり。

実際にやってみた

阪和線組、御堂筋線組ともに13時5分学情前スタート、時の広場での再会を誓い合った。上記のように杉本町、あびこ両駅へは徒歩で向かう。

阪和線組13時9分杉本町駅到着。さすが大阪市立大学前との副駅名を持つだけあって近い。一方の御堂筋線組はまだ大学を抜けたあたり。あびこ駅まで徒歩で向かうのは遠い。

13時14分発阪和線普通天王寺行に乗車。阪和線組が一歩リード。

13時21分御堂筋組ようやくあびこ駅到着。同23分発千里中央行に乗車。このとき阪和線組は鶴ヶ丘駅で通過待ち。ここから我々は御堂筋線の本気を目の当たりにする。

13時30分阪和線組が先に天王寺駅に到着。しかし同31分御堂筋線組も天王寺駅に到着。あびこからわずか8分で天王寺に到達した。一方の阪和線は

倍の16分かかった。ここで形勢逆転。御堂筋線の優勢となった。

阪和線組は天王寺駅で阪和線から大阪環状線に乗り換え。13時37分大和路快速外回り大阪方面行出発。このときすでに御堂筋線組はなんばの手前。すでに勝負あったか？

13時47分御堂筋線組は梅田駅に到着。ここから徒歩で時の広場へと向かう。このとき阪和線組は西九条駅。ここにきて阪和線組が猛攻している。

果たしてゴールの時の広場に先についたのはどちらか・・・

13時52分御堂筋線組が時の広場に到着。市大（学情前）→梅田（時の広場）の戦いを制したのは御堂筋線だった。

阪和線組は13時52分大阪駅に到着、同54分に時の広場到着。御堂筋線組から遅れること2分阪和線組もゴール。天王寺からの環状線の猛攻の甲斐あって想像よりも大きな差は出なかった。

結果
win 御堂筋線 (徒歩の移動時間:21分 乗車時間:25分 電車の待ち時間:2分 計47分)
lose 阪和線 (徒歩の移動時間：6分 乗車時間:31分 電車の待ち時間:12分 計49分)
御堂筋線は学情～あびこ駅、梅田駅～時の広場の徒歩で移動時間が多く阪和線は乗り換えが必要なため電車の待ち時間が多かった。

第2ラウンド　市大(学情前)→なんば(なんばマルイ)

Hijichoメンバーの下馬評
・なんばだったら御堂筋線が有利。
・御堂筋線の圧勝。

基本データ
阪和線組:学情前-徒歩 (0.4km) -杉本町駅-阪和線 (6.9km) -天王寺駅-大和路線 (3.5km) -JR難波駅-徒歩 (700m) -なんばマルイ 総移動距離:11.5km 電車賃210円
御堂筋線組:学情前-徒歩 (1.2km) -あびこ駅-御堂筋線 (9km) -なんば駅-徒歩 (30m) -なんばマルイ　総移動距離:10.23km 電車賃270円

実際にやってみた

阪和線組、御堂筋線組ともに学情前13時7分出発。13時12分阪和線組杉本町駅に到着。同14分発阪和線普通天王寺行に乗車。今回も阪和線組が一足先に杉本町を出発。

御堂筋線組13時23分にあびこ駅に到着。目の前で電車が出発するというアクシデント発生。これからの勝負にどう影響していくのか。阪和線組にも一筋の希望の光が。

13時30分阪和線組は天王寺駅に到着。一方の御堂筋線組はまだあびこで電車待ち。

御堂筋線組ようやく同31分発千里中央行に乗車。阪和線組は天王寺同32分発大和路線快速JR難波行に乗車。阪和線組は最大の難所である乗り換えをスムーズに行えた。これはますます阪和線組優勢か。

13時39分御堂筋線組はようやく天王寺到着。同時刻、阪和線組はJR難波の改札口を通っていた。ここから徒歩でマルイ前へ向かう。JR難波はミナミのはずれにあるため、マルイ前までかなり距離がある。

13時45分御堂筋組ようやくなんば駅に到着。果たしてどちらがマルイ前に先につくのか・・・

13時46分ゴールのなんばマルイ前に先に到着したのは御堂筋線組だった。おくれること5分、13時51分阪和線組もマルイ前に到着。やはり御堂筋線は強かった。

結果
win 御堂筋線 (徒歩の移動時間:17分 乗車時間:14分 電車の待ち時間:8分 計39分)
lose 阪和線 (徒歩の移動時間:17分 乗車時間:25分 電車の待ち時間:4分 計44分)
御堂筋線はあびこでの待ち時間が長かったものの、阪和線は乗車時間の長さが11分も御堂筋線より長かったため勝てなかった。

第3ラウンド　天王寺(あべのハルカス)→市大(学情前)

基本データ
阪和線組:あべのハルカス-徒歩 (60m) -天王寺駅-阪和線 (6.9km) -杉本町駅-徒歩 (0.4km) -学情前 総移動距離:7.35km 電車賃170円
御堂筋線組:あべのハルカス-徒歩 (30m) -天王寺駅-御堂筋線 (5.9km) -あびこ-徒歩 (1.2km) -学情前 総移動距離:7.13km 電車賃230円

Hijichoメンバーの下馬評
・天王寺だったら阪和線が勝つと思う。
・今回は電車に乗る距離が梅田やなんばと比べ短いからあびこからの徒歩の時間が大きく影響しそう。

実際にやってみた

9時37分あべのハルカスのたもとで戦いの火ぶたが切られた。今まで全敗で何としても勝利したい阪和線組と余裕な表情の御堂筋線組、今回はどちらに勝利の女神がほほ笑むのか。

9時39分御堂筋線組が地下鉄天王寺駅に到着。同41分発御堂筋線なかもず行電車に乗車。

同時刻、阪和線組はJR天王寺駅に到着。御堂筋線組が先に天王寺を出発。

阪和線組は9時44分発阪和線普通日根野行に乗車。御堂筋線組に少し遅れて出発。御堂筋線組は西田辺駅に差し掛かっていた。

9時49分御堂筋線組は早々とあびこ駅に到着。一方の阪和線組は鶴ヶ丘駅で通過待ち。差を広げられた。

10時ちょうど阪和線組ようやく杉本町駅に到着。はたしてゴールの学情前にはどちらが先に到着するのか・・・

10時3分御堂筋線組が学情前に到着。有終の美を飾った。

阪和線組は遅れること3分、同6分に到着。阪和線、まさかの全敗。御堂筋線、想像以上に速い。

結果
win 御堂筋線（徒歩の移動時間：16分　乗車時間8分　電車の待ち時間2分　26分）
lose 阪和線（徒歩の移動時間：10分　乗車時間計16分　電車の待ち時間3分　29分）

阪和線は鶴ヶ丘駅での通過待ちが祟って御堂筋線と比べ乗車時間が倍となった。これが敗因であろう.
速さにおいては御堂筋線の全勝という結果となった。もし大学からあびこ駅までの移動に自転車を使うとその区間の移動時間が半減するので御堂筋線の圧勝だろう。

次は電車賃について比較したい。

御堂筋線	阪和線
あびこ-梅田　310円 通学定期1か月 5960円	杉本町-大阪　290円 通学定期1か月6820円
あびこ-なんば270円 通学定期1か月 5840円	杉本町-JR難波 210円 通学定期1か月 5110円
あびこ-天王寺230円 通学定期1か月 5250円	杉本町-天王寺　170円 通学定期1か月 3490円

電車賃はすべて阪和線のほうが安いが通学定期は梅田のみ地下鉄のほうが900円ほど安かった。
地下鉄は長距離の定期はJRと比べて割安だといえる。地下鉄＝高いという印象を筆者自身持っていたがこの結果には驚いた。

本数や遅延率の比較
本数（平日昼間）
御堂筋線　あびこ駅　**8本/h**
阪和線　杉本町駅　4本/h

これは御堂筋線の圧勝。さすが大阪の大動脈。阪和線の普通電車は15分に1本しか電車が来ない。

遅延率 (9月1日〜26日までに起きた遅延の回数)
御堂筋線　12日 (発煙による遅延) 22日 (人身事故による遅延)　計2回

阪和線 14日 (非常ボタン取扱いによる遅延) 16日 (台風) 20日 (踏切の遮断棒が折れたため遅延) 23日 (人身事故による遅延) 26日 (人身事故による遅延) 計5回

関西の中でも遅延が特に多いとの定評がある阪和線。1月足らずで5回も遅延。対して御堂筋線は2回。また、御堂筋線は長時間運転見合わせることは少ない。定時性は御堂筋線に軍配が上がる。

まとめ

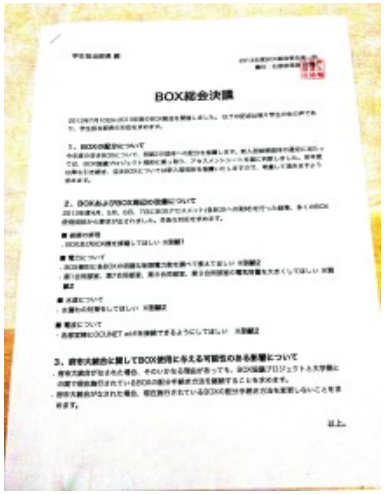
速さ、定時性、本数は御堂筋線のほうが優勢、料金は阪和線のほうが安く済むことが今回の調査で分かった。時間重視なのかはたまた安さを重視するのかは意見は分かれるところだろうが、御堂筋線と阪和線はそれぞれに長所があるので、時と場合によって使い分けるとより快適に移動できるだろう。

町田和紀　(Hijicho)

BOX総会2013　決議書を大学へ提出

2013年7月10日18時30分から820教室にてBOX総会2013が開催された。当日は大阪市立大学の課外活動団体104団体が出席した。BOX協議プロジェクト執行部が決議案を総会に提示し、承認された。総会の決議としては以下のとおりである。

◆空きBOXに伴うBOX新規入居団体の推薦
◆BOXおよびBOX周辺の設備・環境の改善
◆府市大統合の可能性に際してBOX配分の手続き変更の拒否


BOX総会決議

BOX総会2013決議書(PDF)
URL：http://hijicho.com/wp-content/uploads/679fd82dc9be7bef68e63842a352fb92.pdf

BOX協議プロジェクト執行部は総会翌日の7月11日に学生担当部長不在のため、代理の学生支援課課長に決議書を提出した。

写真=学生担当課長の豊田氏(左)と
BOX協議プロジェクト執行部の石原(右)

現在の規約では、決議書の内容に関して学生担当委員会を経て学生担当部長が承認すれば、要望が届く仕組みとなっている。但し学生担当委員会に学生は参加できない。

学生支援課によると、BOX総会の決議書は7月中旬の学生担当委員会の議案となったという。7月の会議では空きBOXに伴う新規入居団体に関してのみ、学生担当部長が承認し、BOX協議プロジェクトが推薦した団体に新規BOXが配分されることとなった。残りの議題については8月以降審議され、9月以降に回答書が返ってくる予定だ。

石原奈甫美 (Hijicho,BOX協議プロジェクト執行部)

関連記事

■BOX総会2013開催
URL： http://hijicho.com/?p=13890
□市大存亡の危機 ～無関心ではいられない～
URL：http://hijicho.com/?p=12914
■引き続き要望を 2012年度BOX総会決議書の回答くる
URL：http://hijicho.com/?p=13218
□BOX総会2012決議書を提出　大学の回答を待つ
URL：http://hijicho.com/?p=11225
■BOX総会2012　12月5日(水) 開催
URL：http://hijicho.com/?p=10125
□BOX協の精神は生きている
URL：http://hijicho.com/?p=254
■目当てのBOXはどこに?? BOXマップ
URL：http://hijicho.com/?p=12711

『はだしのゲン』だから？ ～閉架措置騒動によせて～

今年8月16日に松江市教委による『はだしのゲン』(中沢啓治)の閉架要請の問題が騒動になって10日、26日には閉架撤回の決定が出た。

撤回が早すぎる

問題になってから撤回されるまでがあまりにも早すぎて、撤回されたのは、閉架という措置が見直されたからではなく、批判の声が大きかったからではないのかと思わずにはいられない。

今回は、小・中学生が読むには、描写が過激だとして閉架の措置をとったのではないのか。その描写は消えたわけでは無い。問題の解決もないまま、これほど即座に閉架の撤回が行われては、撤回の撤回、つまり、次の閉架もまた同様になされてしまうのではないかと感じてしまう。

なぜなら、「子どもにふさわしいか、ふさわしくないか」という点で、閉架に反対した人、賛成した人は、どちらも根本的には変わらない。子どもが読んでもいい本は、大人が選択できる、もしくはすべきだという立場に立っているからだ。

この騒動で『はだしのゲン』を新たに読む人、読み返す人も増えるだろう。今すぐにではなくても、問題になった部分を読んで、「やっぱりこれは駄目だ」と言う人の方が多くなれば、また閉架になってしまうのだろうか。

「選ばれた本」、「選ばれない本」、そして「閉架になった本」

そもそも、今回の閉架措置が問題になったのは、その対象が『はだしのゲン』だったからだろう。もしこれが、たいていの保護者が子どもには読ませたくないと思うような、いわゆる「子どもの発育上よろしくない(かもしれない)本」だったらこれほど大事になっただろうか。ならなかっただろうし、実際これまでには、問題にならずに消えてしまった本もあるだろう。もっとも、そういう本のほとんどは、まず学校の図書館には置かれていない。

学校の図書館という時点で、選ばれた本しか置かれないのだ。つまり、子どもたちの本を読む自由は、はじめからある程度制限されていると言える。

今回のことに関しても、元々『はだしのゲン』が無い学校もあるだろうし、「表現に問題がある」として閉架になったとしても、「選ばれた本」から「選ばれない本」に移行しただけだ。

しかし、それでもやはり、「選ばれない本」と、「閉架になった本」は、同じであるとは言えない。閉架になったということは、それまでは学校の図書館の本棚に並び、生徒たちが読んでいた可能性があるということだ。もしかしたら、大人が子どものためと思って閉架にしたその本が、ある生徒にとっては読書の楽しみを教えてくれた大切な一冊かもしれないのだ。

「学校」の図書館であること

学校図書館は確かに教育機関の一部である。しかし、　学校図書館は大人の都合のためではなく、生徒と、その学習との助けのためにあり、そこにある本は決して、大人が子どものためと言って自由にしていいものではない。学校図書館の本は、学校と生徒たち、さらには地域の人々の共有財産なのだ。

また、学校は、社会に出る前の準備・練習の場でもある。そこで自身の自由を大人に無視された子どもたちは、果たして大人になったからといって急に自分や他人の自由を尊重できるようになるだろうか。ましてや、自分たちの子どもに対して自由を守らなければと思えるだろうか。

本の内容が子どもに及ぼす影響を考えてみることは大切だろう。しかし、本の中の登場人物の言動が子どもたちに影響を与え得るなら、実際に身近にいる大人の言動もまた同じではないだろうか。

学校の図書館という教育の場で、子どもの自由な意思を蔑ろにすることによって、それが子どもにどんなメッセージを送ることになるのか、私たちは自分たちの挙動が子どもに与える影響の方こそ省みなければならないのではないだろうか。

まとめ

今回の問題でもっとも疑問に思うのは、学校図書館の最も重要な利用者である生徒たちの声がほとんど聞かれないことだ。子どもたちの自由を守らなくてはいけないのは大人だし、守るべきと主張するのは大人でもいい。しかし、好きな本を読む自由を最も主張するはずは周囲の大人ではなく、本来なら、図書館を利用する当の生徒たちではないだろうか。その主役である生徒たちの意見をしっかりと聞くことが大切だと思う。意見を聞かれることもなく、無視されることに子どもを慣れさせてはいけない。しかし、聞かれなければ言えないままでは、子どもたち自身が困るのも事実だが。どうすれば、子どもたちが自主的に自分たちの意見を述べることが可能になるだろうか。

最後に、閉架もその撤回も、もっとゆっくり考えていいことではないだろうか。そんなに急いで結論を出す必要もないように思う。特に、教育という多くの子どもたちに直接影響を与える場では。

市大存亡の危機〜無関心ではいられない〜 vol.5

「市大存亡の危機〜無関心ではいられない〜」は大阪府市大統合について様々な視点から切り込んでいき、学生の皆さんに問題意識を持ってもらうことを目的としたコーナーである。

今回は平成25年8月27日 (火) に開かれた、第4回大阪府市新大学構想会議にて出された、「新大学案 (素案) 」の内容を見ていく。

「新大学案 (素案) 」

新大学案 (素案) は、平成25年1月18日に大阪府市新大学構想会議から示された「新大学構想＜提言＞」や、同年4月に出された「新大学ビジョン (案) 」、それに対して行われたパブリックコメントなどをもとに作成されている。

内容は以下のような構成となっている (執筆者要約) 。

第1章　新大学設置の理念

両大学は、これまでも人材の育成と研究成果の還元を通して、大阪の成長に寄与してきたが、統合により、さらに質の高い教育・研究体制を実現させ、世界に対し競争力を持つ新大学として未来に向け新たな責任を果たしていくとしている。そのために新大学は、研究、教育、地域貢献、大学運営において、以下の視点を重視して取り組み、大阪における重要な知的インフラ拠点となることを目指している。

1.研究
地域から世界へ展開し、世界的な研究拠点をめざす

2.教育
地域に根ざし世界に羽ばたく人材を育成する

3.地域貢献
地域社会を創造し、地域活力の源泉となる

4.大学運営
柔軟で持続的に改革する

第2章　理念実現に向けた戦略

1.研究戦略

国立の基幹大学に匹敵する研究活動を推進し、グローバル拠点となることを目指し、同時に地域の課題解決のための研究推進も目指している。また、分野の垣根を越えて異分野融合研を推進することや、国内外の大学・企業・自治体等と連携し、イノベーション創出を推進し、グローバル研究につなげるとしている。

2.教育戦略

教育面においてもグローバル教育 (人材育成) が中心となっている。そのために大阪市立大学 (以下市大) の強みである基礎教育と、大阪府立大学 (以下府大) と学際教育とを掛け合わせ、シナジー効果 (相乗効果) を生み出すことや、全学共通教育 (基幹教育) の充実のために基幹教育機構 (仮称) を設置すること、高度な専門性を有する人材の養成などが掲げられている。

3.地域貢献戦略

産学官連携を通した地域課題の解決や、公開講座の充実など、地域貢献の拠点となること、大阪の産業活性化への貢献、医学部をもつ総合大学の強みを活かし、大阪における健康科学の拠点となることなどが目指されている。

4.運営改革戦略

経営と教学の責任者を分離し、それぞれの一層の充実を図ることや、ガバナンス機能の強化が第一に掲げられている。他に、組織改革のためのPDCAサイクル (改善検証サイクル) の定着、大学独自のブランド力の構築、教員と職員が一体なった「教職協働」による業務推進体系の構築なども明記されている。

第3章　新大学の教育・研究体制

1.教育・研究体制の基本的方針 (新大学の教育・研究組織図は、素案の24頁を参照)

大きな変化としては、「地球未来理工学部 (仮称) 」の設置と、「人間科学域 (仮称) 」の設置など。その新たな体制のもと、学士課程においては「学部」 (学術的) と「学域」 (学際的) の二つの特徴を最大限活かした教育を目指し、大学院では高度な研究を通じて行う少人数教育により、社会で活躍できる高度専門職業人の要請などを目指している。

また、入試方法の見直しや、実践的教育の充実、教員組織と教育組織を分離したり、アンケート調査等による教育プログラム改善のための戦略等、教育体制の強化、経済支援やキャリア教育の充実、学生生活のサポート等の学生支援の強化なども、掲げられている。

2.全学教育研究組織

全学共通教育を「基幹教育」として学士課程におき、それを統括する組織として「基幹教育機構 (仮称) 」を設置するとしている。

さらに、基幹教育以外にも研究、地域貢献、産学官連携、国際化等の全学教育研究組織を設置するとしている。名称は統一して「推進機構 (仮称) 」とし、高度研究推進機構 (仮称) や国際化推進機構 (仮称) などとする。

3.研究院

教員が効率的かつ円滑に教育研究や地域貢献に従事できるよう、教育組織 (学部・学域・大学院) とは分離した形で、教員の研究拠点としての「研究院」を置く。

第4章　新大学の運営体制

1.法人と大学の運営方針

理事長と学長はその求められる権限と責任を分離し、理事長は公立大学法人 (以下法人) の長として法人経営を総理し、学長は教学の長として大学運営を総理する、としている。また、法人運営の基本的な取り組みとして、ステークホルダー (利害関係者) との関係構築のため、わかり易い情報開示に努めるとともに、ステークホルダーからの意見集約と反映の仕組を整備することなどがしめされている。そして大学運営の基本的な取り組みとしては、大学運営の課題に対し、トップマネジメントによる迅速な対応を図るため、意思決定のルールを明確化するとともに、教人事権や学長発議の教員採用、学長裁量経費の確保など、トップマネジメントを支える仕組みを構築することなどを示している。

2.教員組織と教員人事

教員組織としては、教育組織との分離のもと「教育院」を設置し、その専門分野に応じて、効率的かつ円滑に教育研究や地域貢献に従事できるようにするとしている。教員の採用、昇任、配置転換等の教員人事は、法人に設置する「人事委員会」が、大学の戦略に合わせて柔軟かつ一元的に行うこととし、学長は、人事委員会の選考に基づき、教員人事の申出を理事長に行うとしている。

3.事務組織

大学の事務組織は、効率化の観点と併せて、大学戦略の推進、教務、入試、学生支援、教育・研究支援といった諸課題への柔軟かつ円滑な対応、組織間の連携強化を図る。また、教員が過度の事務的な業務に煩わされないように、事務機能の効率化を図るとともに、事務職員が、主体的・積極的に参画し、教員と職員が一体となって業務を推進するようにする、「教職協働」も掲げられている。

第5章　新大学のキャンパス像

当面は現行のキャンパスの有効活用を基本とする (詳しくは素案の18・19頁参照) 。また、キャンパス分散によるデメリットを防ぐため、「キャンパス運営宴楽会議 (仮称) 」を設置し、情報共有を行い、大学としての一体的かつ効率的な運営に努めるとしている。さらに、将来的には、都心への新キャンパス設置等も検討されている。

第6章　その他

1.「新大学案」の取り扱い

新大学案は、公立大学法人の設立団体である大阪府・大阪市が策定した「新大学ビジョン」に基づき、新大学の制度設計や文部科学省による設置認可に向けて必要な基本的事項について、方針などをまとめたものである。

2.スケジュール

今後は以下のようなスケジュールで統合が進められる予定だ。

[平成25年度]
現定款の変更議案の上程 (中期目標の変更、理事長・学長の分離等)
認可申請準備開始 (文部科学省大学設置室 ・各関係省庁)

[平成26年度]
<4月>
新理事長・学長の任命 (理事長・学長の分離)
新大学設置申請書の作成、文部科学省との事務相談等
<5月>
入試科目の公表
(年内)
学内最終手続 (役員会・審議機関等)
<2月>
中期目標の策定、中期計画の策定 (1 法人2 大学に伴うもの)
<3月>
新大学設置認可申請 (文部科学省)

[平成27年度]
<4月>
新中期目標スタート (新法人スタートに伴うもの)
<5月>
大学設置・学校審議会へ諮問
<10月>
新大学設置認可 (見込) 、学生募集・入試 (認可後)
<2月>
中期目標の変更、中期計画の変更 (新大学設立に伴うもの)

[平成28年度]
<4月>
新大学スタート

3.両大学の継続に関する課題

新大学設置後も、現在の両大学の学生が卒業するまで、当然のことながら両大学は存続するものであり、教育・研究の質及び環境は保障する。 特に、歴史・伝統ある両大学を志願された在学生の思いを重く受け止め、大学統合のプロセスの中で、混乱や不信を招くことのないよう、十分な配慮を行う、としている。

橋本啓佑 (Hijicho)

参考

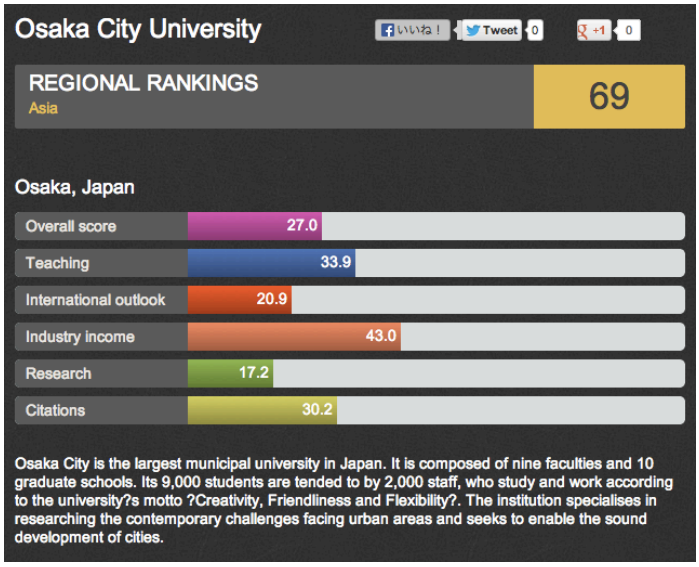
□大阪府市新大学構想会議
http://www.pref.osaka.jp/shigaku/kousoukaigi/index.html

■新大学案 (素案)
http://www.pref.osaka.jp/attach/16822/00132205/8%20shiryou3.pdf

府市大統合から国の成長戦略まで 今、注目を浴びる大学ランキング ～市大アジア69位ランクインによせて～

大阪市立大学は、英高等教育情報誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表したアジア地域の大学ランキングにおいて第69位となった。このランキングは「教育：学習環境 (研究者からの評価や教員数と学生数の比率など) 」、「国際性 (外国人教員比率・外国人学生比率・研究の国際性など) 」、「産学連携収入 (産業界からの研究収入) 」、「研究 (研究者からの評価、教員数と論文数の比率など)」、「論文引用数」等5つの大きな括りの中の13の要素を基に、アジア地域の大学を順位付けたもの。同誌これまで「世界大学ランキング」などを毎年発表しており、アジアの大学のランキング化は初となる。

ランキングでは、東京大学が1位、京都大学が7位、東京工業大学が13位、東北大学が15位、大阪大学が16位と、トップ20に国内の5つの大学がランクインしている。また公立大学では、首都大学東京が36位にランクインしている。大阪市立大学の69位周辺には、広島大学 (67位) 、神戸大学 (73位) などがランクインしている。大阪市立大学の評価の詳細を見てみると、産業連携収入や教育、論文引用の値が高い一方、国際性と研究の値が低いとの結果が出ている。



画像＝タイムズ・ハイヤー・エデュケーション HPより

今回の大阪市立大学のランクインは、大学の公式ホームページでも紹介されており、大学側も自らがどの位置にランクインしているのか注目していると考えられる。

大学ランキングと国の成長戦略

今日、我が国の成長戦略においても、世界の大学ランキングが注目されている。日本の大学で、英タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの「THE世界大学ランキング 2012-13」の100位以内にランクインしたのは、27位の東京大学と54位の京都大学のみだ。大学の国際化の必要性が叫ばれる中、このような状況に対して、安倍政権は成長戦略のひとつに「今後10年で100位以内に10大学」を掲げ、大学の経営改革・予算措置に乗り出していく構えだ。

以下、安倍総理のスピーチの引用。

平成25年5月17日 安倍総理「成長戦略第２弾スピーチ」
まず隗より始めよ。国立の8大学で、今後3年間の内に、1500人程度を、世界中の優秀な研究者に置き換えます。これにより、外国人教員を倍増させます。

大学の経営の在り方も、世界のグローバル・スタンダードにあわせなければなりません。年俸制の導入や、教員の家族が英語で生活できる環境の整備など、経営改革も進めてまいります。

国の運営費交付金などの分配についても、「グローバル」に見直しを行い、大学の改革努力を後押ししていきます。

外国人教員の積極採用や、優秀な留学生の獲得、海外大学との連携、そして、英語による授業のみで卒業が可能な学位課程の充実、ＴＯＥＦＬの卒業要件化など、グローバル化を断行しようとする大学を、質・量ともに充実させます。制度面でも、予算面でも、重点的に支援します。

今後10年で、世界大学ランキングトップ100に10校ランクインを目指します。同時に、グローバルリーダーを育成できる高等学校も、作ってまいります。

具体的には、上位100校入りを支援するため、文部科学省は2014年度予算の概算要求の項目に、「スーパーグローバル大学事業」というものを盛り込んでいる。これは「グローバル化を背景に、世界に冠たる教育研究レベルを誇るトップレベル大学をはじめ、高等教育の国際化を牽引し有為な人材を育成するグローバルトップ大学群を形成する国公私立大学を、現行制度の枠にとらわれずに、制度改革と組み合わせ制度と予算を総動員して支援 ※対象：30大学(トップ型 10大学、グローバル化牽引型 20大学) 」する事業だ。この事業に対して、概算要求額156億円を設定している。

府市大統合と大学ランキング

このような大学ランキングを意識した大学運営の流れは、府市大統合の構想においても例外ではない。平成25年4月に大阪府市新大学構想会議の提言をもとに、大阪府・大阪市より示された「新大学ビジョン (案) 」において、以下のような文言が記されており、統合による大学ランキングの向上を明確に意識している。

○大学ブランド戦略の推進、情報発信の強化
・新大学の国際的な認知度を高めるため、各種ランキングの順位向上を図るとともに、メティ ア等に積極的にPRを行い、効果的な情報発信に努めるなどブランド力強化に取り組む。

○研究で世界と戦える大学の実現
・学長のガバナンスのもと、新大学の強みを発揮する分野や戦略的研究分野に集中投資を行い、国際的なランキングの向上など世界と戦える大学を実現する。

・統合を機に新大学の世界的な評価(ブランド力)を上げることが求められる。

ランキングが目的になってはならない

このように、大阪市立大学はもとより、府市大統合や国の成長戦略など、様々な場面において大学ランキングは念頭に置かれている。しかしながら、このような大学ランキングを意識した流れに、いささか疑問を感じずにはいられない。確かに、今後大学の国際化を推し進めていく上で (もちろん大学の国際化についてもまだまだ議論は必要だろうが…) 、世界大学ランキングトップ100に10校入れるという具体的な目標値を設定をしているのは意義のあることだろう。しかし、ランキングの向上自体が目的になってはいないだろうか？

大学ランキングの妥当性は?

そもそも各大学の実態とランキングの評価が、完全に一致するということはありえないはずだ。論文引用数や外国人教員比率などの一側面を「指標」という客観的にみえる基準で見てランキングしているにすぎない。確かにそれら単体で比較はできるとしても、それらを合わせた総合指標やランキングは可能だろうか。例えば、英タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの「THE世界大学ランキング」では、それぞれの評価指標に対し「教育：学習環境 30%」、「国際性 5%」、「産学連携収入 2.5%」、「研究 30%」、「論文引用数 32.5%」というように評価ポイントの配分を定めている。その比率を決める際に、どれがどれくらい重要だと決めるにしても、主観的な要素が入り込み、歪みが生まれてしまう可能性は排除できないのだ。さらには国際的なランキングである以上、国が違っても通用する指標を作り上げるというのは非常に困難なことだろう。

また、ランキングの問題点として、数値化されないものが一切無視されるという点がある。例えば、教育の質など数値化されない、しにくいものもあり、そのような面で実力を持った大学が評価されないということも起こりえてしまう。

まとめ

英タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの「世界大学ランキング」をはじめとして、世界には様々な大学ランキングが存在する。それらは、ある機関が決めたある見方での評価であり、絶対的な価値を示したものではない。だからこそ、大学ランキングというものは、あくまで一機関が独自にやっているものだから歪みはあるものであり、位置を確認するための一手段にすぎないと認識した上で、活用していくことが重要になってくる。府市大統合においても、国の成長戦略においても、ランキングにおける順位向上が目的にならないように注意すべきだろう。ランキングを重要視するあまり、ランキングの評価項目にあるものばかりを追い求めて、ランキングに関係のないものを切り捨てしまうといったことのないように願いたい。

鶴木貴詩 (Hijicho)

参考

□タイムズ・ハイヤー・エデュケーション HP
http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2012-13/regional-ranking/region/asia/institution/osaka-city-university

■大阪市立大学HP 「アジア大学ランキングで69位になりました！」
http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2013/jknet4

□安倍総理「成長戦略第２弾スピーチ」
http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/statement/2013/0517speech.html

■文部科学省HPより
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2013/08/30/1339145_2.pdf
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2013/08/30/1339147_2.pdf

□新大学ビジョン (案)
http://www.pref.osaka.jp/shigaku/kousoukaigi/

市大七不思議 ~ The 7 Wonders of OCU ~ 第二回

「学校の七不思議」という言葉、これまでの学生生活を通じて皆さんも一度は聞いたことがあるだろう。およそ学校と呼ばれるところには多くの場合七不思議が存在する。古い学校は特に多く、その内容は単なる噂の場合もあれば、それぞれの学校の特徴や歴史を実にうまく捉えているものもある。

そこで今回130年余の歴史を持つ我らが大阪市立大学にも七不思議は存在するのではないか、そしてそれを通じて市大の今まで気づかなかった部分を再発見していけるのではないかという想いのもと調査を開始することにした。

ワシントン広場のヤシの木

第2回目は1号館前の広場に植えられたヤシの木について調査した。ヤシの木といえば南国のイメージが強い。にも関わらず、大阪の大学に植えられていては不思議に思わずにはいられない。

調査を進めたところ、このヤシの木は卒業記念に植えられたものであり、正確な記録はないが、1957年から1959年ごろに植えられたとされている。この30本ほどのヤシの木は実は二種類あり、そのほとんどはロブスタ種 (セダカワシントンヤシ) と呼ばれるものだが、わずかに背が低く幹が太いフィリフェラ種 (オキナワワシントンヤシ) が混ざっている。この広場がワシントン広場と呼ばれるのもこの品種名が理由だろう。今では15メートルを超える高さと言われているロブスタ種のヤシの木だが、植えられたその当時は50センチから60センチ程度の鉢植えだったというから驚きである。このヤシの木は意外にも高温多湿に弱く、年に1回はマイナス5°から5°Cの冬季を経験しなくてはならない。そのため大阪の土地でも育つことができるのである。ヤシの木といえばあの大きなヤシの実を連想するだろうが、この種類のヤシの実は全長1センチ前後と非常に小さい。その果肉は甘いと言われているが、その味を知る人はそうそういないだろう。

また、このヤシの木たちはかなり丈夫のようだ。大学紛争時代に、投げられた火炎ビンの影響によって黒く焦げてしまったことがあるという。非常に痛々しい大火傷だったようだが、その傷も今では完全に修復している。そのほかにも、大きく損傷したなどといった記録はないが、一時大阪名物と化していた台風から守るために相当な苦労があったという。

なぜワシントンヤシを選んで植えたのかは、大学職員などにも取材を試みたがすでに長い年月が経ってしまっているのでそのことを知る人はいないという。なぜ植えられたかについては今後も調査を継続し、詳細についてわかりしだい追って報告する。

2つ目の七不思議、いかがだっただろうか。このように多くの学生の目には触れていてもつい見逃してしまう、そんな不思議な場所や噂がまだまだ市大には眠っているはずである。

佐伯美奈 (Hijicho)

参考文献

大学史資料室ニュース 第7号 大学史の一こま:ワシントン椰子 (2002年12月)

●市大七不思議大募集

連載コーナー「市大七不思議」は読者から寄せられた応募に基づきHijichoが直ちに優秀な記者を派遣し真相の追求にあたります。Hijichoでは市大の七不思議候補を募集しています。皆さんが知っている市大にまつわる不思議な話がありましたらぜひ我々にご一報を！

〇応募資格

大阪市立大学または大学院に在学中の学生・市大OB・教職員など市大関係者

〇応募先

hijicho@gmail.com まで件名に『市大七不思議候補』と明記し、必要事項 （ 推薦理由、わかる限りの情報：噂でも可 ）を明記の上ご連絡ください。

※応募していただいたすべての候補を取り上げるわけではありません。応募された候補の中から市大七不思議にふさわしいものを厳選したうえで取材させていただきますのでご了承ください。取材を行う人が決定した際にはこちらから連絡させていただき、取材にご同行をお願いする場合がございます。その際はご協力お願いいたします。